

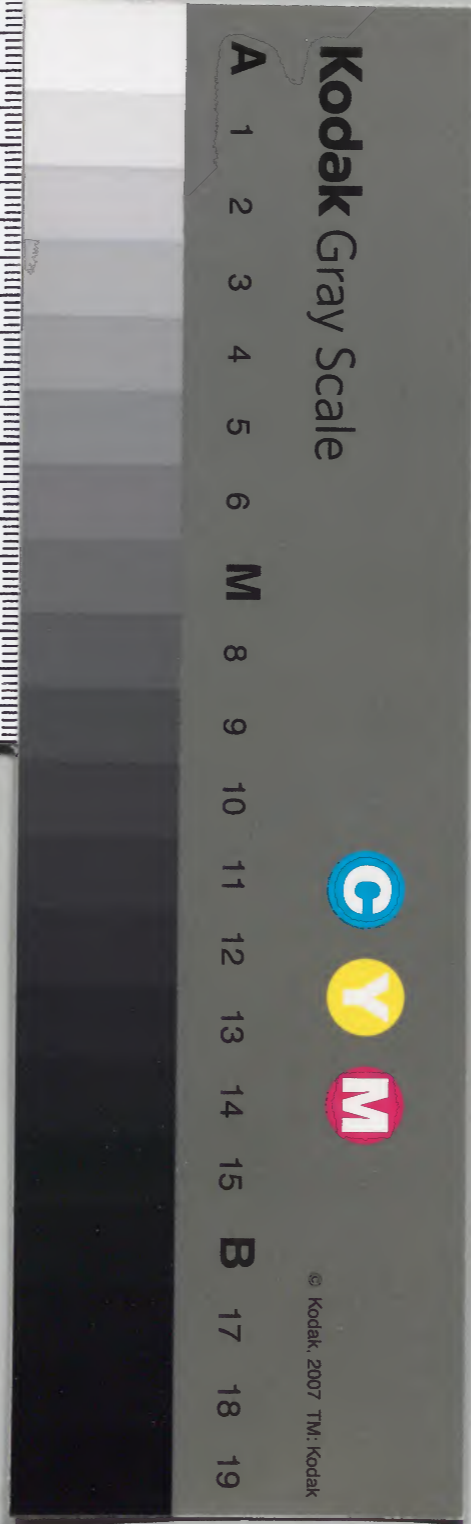
# 增鏡

七

|       |   |     |   |
|-------|---|-----|---|
|       |   | 和書門 |   |
| 八     | 一 | 六   | 一 |
| 一     | 〇 | 九   | 八 |
| 冊架函號類 |   |     |   |

|      |   |    |   |
|------|---|----|---|
| 庫文閣内 |   | 和書 |   |
| 三    | 八 | 八  | 七 |
| 函    | 一 | 〇  | 六 |
| 架    | 冊 | 號  | 類 |

|      |          |      |  |
|------|----------|------|--|
| 内閣文庫 |          |      |  |
| 番號   | 和        | 8716 |  |
| 冊數   | 10 ( 7 ) |      |  |
| 函號   | 138      | 29   |  |

















忠乃女。二条と行を給ふといふ事よるが着  
給ふとこれ人な給ふらてはま給へきたしあまの事  
まのときぞあつくさあられ給ひま給。右に近清教深大  
幼言雅家乃女。三比たふ大幼云君家所ゆかりの宰相中務なかつむろ  
重乃女。右よ新大幼言たあ。二位兼好ふたゆゑとくぬ女臣乃  
右宰相君房うゑの門かど二位基輔もとすけ乃女。右治部ちぶの如ごとももの二位  
の女あり。さきより一もいさひの。いさひをんお  
やくる奉事乃けり。あふくれがむとめぐもるふ平。  
わいの志しう久住さう一。す。こ物おひん家もそ。さ  
みか。うらあも。いさひ。あやうらう。す。こ。あ。あ。あ。  
さう形。や。の。ら。れ。ま。り。そ。れ。つ。こ。頭中かぶの。あ。る。

熱朝あつあそ長信ながのぶ消息せうしきとして海うみのまきり海うみのうへあつこ

むらり

雲乃う魚ういり子こ代しろとあつこんひあそ

幸さい乃の日ひけもあつこ

くれの井いれうすやうわあ。うすな。うすな。あをば  
まれ。あふ。関白せんぱく殿とのは。む。や。う。志し。は。と。や。の。い。さ  
ひ。ま。あ。と。そ。親山おんやまよ。ん。え。う。お。と。ま。う。せ。給。ひ。ま。れ。づ。つ  
う。て。は。ま。ま。せ。う。ま。ま。あ。と。ぞ。う。あ。こ。ま。う。り。と  
あ。こ。お。よ。又。あ。の。ま。う。なる。女むすめ。つ。を。や。ま。は。つ。の。い。美み  
敷しき乃中將なかつむろと。う。ま。は。あ。り。給。ひ。う。と。こ。う。う。う。女むすめ。乃  
は。よ。そ。お。る。す。つ。う。れ。ま。り。う。ま。あ。り。う。う。あ。り。う。う。れ。部











すくし此のく酒のいん竹きすてよけとほら  
ちほりさる儀一すし此のく酒らひ一まの  
御陪膳ごんぱんぜん一条教いちじょうきょうがまらりけりけりけりけり  
女房とも多く此一重いんぐんがまの唐夜からよを酒くあつ  
きまどとほけりすすし乃ら酒みきさる  
りしほりかんをさるひまらりし酒あり  
せんらひしとせすの宗次身にとりつまをまら  
かの酒でけりろく孫乃かこくら此のく酒一  
酒のせんどののく女侍教も酒をさるくけり  
給ふの儀をさる。あまの二位殿今出河へまら  
ま車乃せんしゆより給ふ酒をさるけり乃まら

中油を酒の乃通重乃を酒つ酒あし最上人と  
まらなりぬ保どのの酒より給ふ酒をさる  
そり酒あしや酒入由まの夜の酒は勾當内儀ま  
りまらりけりまらりけりまらりけりまらり  
乃酒つひいよまの酒をさる人も女の酒をさる  
まらり酒りまのりて教上えんじやのまらは酒をさる  
酒のさそゆるまらりひるのまらり酒の酒は  
中ぬあり一公衡きんかう此中細言對面よひめんしてまらり  
のらこれま女のさるまらり酒の酒をさる  
日名ひなは立給ふあひのくまらり今も川乃酒をさる  
むてまらり乃儀式ぎしきをさるまらり酒の酒をさる











































らうに、<sup>ガク</sup>舞樂田樂師子の、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
く、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
も、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
ら、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
ま、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
こ、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
ん、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
そ、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
お、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
そ、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
舞、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、

女子どもが、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
お、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
ら、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
この、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
ま、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
お、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
ら、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
あ、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
一、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
ま、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、  
と、<sup>シテ</sup>舞臺に上らるる者ども、<sup>シテ</sup>十六日、















むきとらえ給ふ。玄タケミ門院の所をたむよありつとま  
なまひしあひひもやなうかへくはく入まはく  
乃き海より思ひあはれなきしき趣ひたつはの所  
しりもらるる後あまはうあひさ海ああまは  
しでいとあしつうあし福とあひの君とはを  
このまら給ふ次おひとあひの市んよあし  
あまこおんし海あまかめくあまは給ふ給ふ  
あけしう申交のりせ給ふは代よまら  
約まじ幸とを捨くし給ふあまかめくあまは  
とひがあまは色あしう給ふは月日あしおひ  
はまは中しそあひは給ふあけたつあまは

六年一しありぬ七月廿二日春宮の位授へりておま  
をし手ひぬあまはながあまはとあまは  
いであしおひはあまはあまはあまは  
はくはくしつうあまはあまは新院

あまはあまはあまはあまはあまはあまは

所あしくわんぎあまはあまはあまは勅を給ふあまは

あまはあまはあまはあまはあまはあまは

瑤川の具守くわんぎはあまはあまはあまはあまは  
しつうあまはあまはあまはあまはあまは















































